



BEST

Recyclers Alliance

NEWS

ベストリサイクラーズアライアンスニュース

中古・リビルトパーツのご提供で
お客様との夢をつなぐ情報誌

2020.4

Vol.202

リサイクル部品ビジネスはコロナに強い



▲新型コロナウイルスで営業停止状態が続く福岡県のカラオケ店

不況に強い体質を発揮のリサイクル部品 非接触の営業形態が功を奏して売上げ堅調



▲リサイクル部品は電話で営業継続が可能



▲ベテラン社員なら一人でも十分対応できる

新型コロナウイルスが猛威を振っている。世界規模で人と経済が打撃を受けている。国内の自動車リサイクル業界もその中のひとつで今後の見通しは極めて厳しい。非常事態宣言を受けた今、業界の表情はどういうものか、緊急ルポを試みた。

4月に入って関係者の声を追ってみるとやや他の業界とは違った表情が伺えた。それはリサイクル分野に限って、輸出以外の部品の国内流通に関しては、まだ極端なビジネスの落ち込みが感じられないということだ。自動車リサイクル事業は以前から不況に強いと言われてきた。その特徴が今回も出ている。

◇リサイクル部品は新車販売と逆の反応

ちなみに新車の販売が落ち込んだら自動車マーケットはかなり動きが止まる。今回も世界規模で自動車の新品部品の供給に不備が出ている。新車生産がストップするわけだ。

そこで、現状の買い替えは停滞し、現有の車両を乗り継ごうとするわけだが、これが補修部品の動きに繋がる。ということでリサイクル部品の出番もまた増えることになる。不況に強い要因がここにある。

次に現時点の自動車リサイクル部品業の特徴を拾ってみると①グループでの広域在庫共有の体制が確立している②電話やメールによる受注と宅配便による発送という、非対面ビジネスの形が出来上がっている、の二点が

大きく他の産業と違う点だ。

客筋も物流の要である自動車整備業界なので低調とはなるものの補修部品の需要は底堅い。即座に店を閉めて動きを止める必要は元からないという好条件がある。今後の新型コロナウイルスへの対応如何にもよるが、現時点での自動車リサイクル業界の表情にはまだまだ余裕が感じられる。

◇まず輸出は半減という大方の意見

そこで業界要人のコメントを拾うと「すでに昨年秋の消費税増税から不況感は深刻だった。国内販売は横ばいだが今年に入って輸出は半減している」(大晃商事・土門志吉氏、エコアール・石井浩道氏、シマ商会・島一樹氏)と輸出不況をまず指摘している。

また巨視的には「我々の業界の考え方が長期間なんの変化も示してこなかった。おそらく自動車メーカー筋の経営発想がこれで激変するだろう。今、我々が扱うリサイクル部品は品質保証が付いている商品で、そうではないリサイクル部品とは違うというアピールが欠けている。対応を急ぐべきだ」(ユーパーツ・清水信夫氏)という見方もある。

このほか、「グループを統括する在庫管理システムはコロナウイルス騒ぎで中断させることはないという意向がはっきりしており心強い。世界規模なので外人バイヤーの動きが止まっていることが目に付いている」(キャレック・渡邊寛樹氏)や「今のところ輸出の目

減りは大きい極端な国内需要の落ち込みはデータ上は見られない」(三重パーツ販売・齊藤徹氏)という見解もある。

◇緊急事態に慣れた特殊な事情

今年3月、4月に予定されていた業界関連の総会、懇親会行事も即座に中止が連発され、一部の株主総会などは規模を縮小して議事が行われ、内容は書面で通達という非常手段を取ったケースが見られた。

他方、自動車リサイクル業界の深い部分に目を向けると、度重なる大災害時の被災車両処理にグループ企業の連携で出動する場合が最近続いてきていた。つまり緊急事態が発生したら動きを止めるのではなく、逆に通常以上に動きを強めることが身に付いてきていた。

今回の新型コロナウイルス対応の雰囲気はいつもの災害対策時のそれとはかなり状況が違う。ビジネスの継続は可能で表面的な動きには大きい変化は見られない。毎日の経営数字をじっと見つめる心理戦に変化した。

戦後の自動車産業界の歴史のなかで極めて特殊な動きである。一步腰を落として我慢強く状況の変化を見定めようという気配が自動車リサイクル業界では濃厚だ。金を稼ぐだけではない社会の環境維持のための事業としての自動車リサイクル業界の特性が感じられる。

JARAグループが 令和の新人事

JARAグループ(土門志吉会長)は令和2年度の役員改選を経て以下のように新人事を発表した。

執行部

- ◇ブロック部長・高橋建作(株)高橋商会
- ◇次世代部長・岩間優(株)イワマワークス
- ◇事務局長兼コンプライアンス対策室長・石川将輝(アールレックス(株))
- ◇監査役・岩間祐介(株)イワマワークス

ブロック部

- ◇ブロック部長・高橋建作(株)高橋商会
- ◇北海道・東北ブロック長・紺野泰輔(株)サンケイ商会

JARAグループ 優良工場を表彰

JARAグループは2019年度の品質優良工場として以下の三社を表彰した。

- ◇一位・(有)周南パーツ
 - ◇二位・レックオートリサイクル(株)シティライト
 - ◇三位・(有)カーパーツマルサ
- 尚2019年度のJARAグループ全体の平均クレーム率は1.09%で極めて低く好成果だった。

ビッグウェーブが研修会を中止 後半9月以降に動きを開始

(株)ビッグウェーブ(服部厚司社長)は令和2年度の会議及び研修会について以下のように延期と中止を決めた。

延期

◇(株)ビッグウェーブ創立40周年記念交流会
延期開催日程・2021年4月16日(品川プリンスホテル)

中止

◇第4回社会人基本研修会(新人・若手社員向け)2020年5月20日から同23日まで(東

京三多摩地区)

◇全国実務者研修会(管理職・フロントマン向け)2020年6月13日から同14日まで(東京ヒューリックカンフェレンス)

開催予定

加盟店代表者全体会議 2020年9月11日・名古屋マリオネットアソシアホテル

上記については新型コロナウイルス感染の広がりを見て早期に判断し再度開催可否を連絡します。

豊田章男氏が 悲痛なうめき声



▲先ごろ開かれた自動車4団体合同記者会見で語る豊田章男JAMA会長

国内自動車産業4団体を代表してJAMA豊田章男会長が合同記者会見に臨んだ。発言の要旨は「この騒ぎが収まったら復興の中核になります」という緊張感あるものだった。そもそも日本経済は昨年8月から失速。自動車業界においては消費税増税前の駆け込み需要もあり、なんとなくごまかされていた感がある。そして年度末は、今回の騒動で急転直下という現状。世界的には直近の3ヵ月で9000兆円あったGDPの15~20%が失われたと言われている。潜在的需要はあるものの、セールスの最前線では思うような接客・商談ができず、今後はオンラインセールスか、あるいは、「むじんくん」のような自動契約機が必須となるかも知れない。(Text: Seiichi Norishige)

女性の眼から見た 緊急事態宣言とは

女流自動車評論家の吉田由美氏はカーライフエッセイストとして国内外を股にかけ、自動車業界情報を収集中だが、最近の新型コロナウイルスによる緊急事態宣言を受け、目下の状況を以下のようにルポしている。

先ごろ、自動車工業4団体がメッセージを公開しました。現在、車の部品でマスクを作り、外部から購入しなくてもいいようにまずは団体内で自給自足できるよう進行中。また、空いている寮や保養施設を使い、トヨタグループで約1500室、自工会会員各社で合計約3000室の隔離施設として活用。現在は海外赴任からの帰国者用に活用していますが、状況によっては軽症患者が療養する

施設として活用する考えもあるそうです。

ほかにも人工呼吸器製造のサポートや、患者の移送に必要な車両の提供やそれに適した車にするための改造、または病室用ベッドの部品などの製作を行う予定だそう。

PSAグループ(プジョー・シトロエン・DS・オペル・ボックスホール)では、マスクや医療機器の提供、医療従事者への車両の提供、人工呼吸器と3Dプリンターによるバイザーの製作を行います。

アメリカの「テスラ」では、テスラの車のパーツを使った人工呼吸器の開発を行い、動画を公開しています。

動画内のホワイトボードに書かれたオレンジ色の箇所はすべてテスラ車のパーツを採用している部分です。たとえば「モデル3」のセンターディスプレイや「モデル3」のインフォテインメントコンピュータによって制御された車両コンピュータを使ったり、バックアップ用のバッテリーとエアコンプレッサーの

バックアップシステムをシュミレーターとして使用しているなど、さすが、テスラはやるのがスピーディです。

そして「アウディ」では、日本時間4月15日午前3時から、ドイツ・インゴルシュタットにあるアウディのプレス工場ではライブコンサートを配信しました。

これは新型コロナウイルスによる世界の危機に対して、音楽の力で国境を越えて人々を結びつけたいというメッセージです。それをアウディの本拠地から発信することで、多くの人々に未来への希望と喜びの瞬間を提供したいとのこと。出演は人気ヴァイオリニストのリサ・バティアシュヴィリと有名オーボエ奏者のフランソワ・ルルーほか。

アウディAGの公式ホームページ、Facebook、Twitterなどで見られるそうです。以前からアートをサポートしているアウディらしい取り組みだと思えます。

(ゲーテWEB・吉田由美氏)

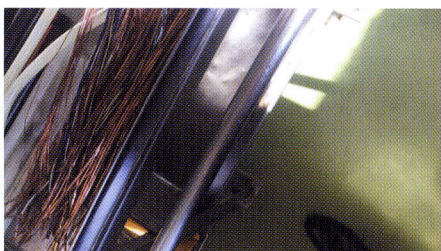
自動車利用者保護機構とモノ造り研が合同で タイヤなどのゴム製品と金属の剥離に成功



▲ミニショベルのゴムクローラーの金属部分を剥離するケース



▲左のゴムクローラーはきれいに剥離された



▲各種の銅線もゴム部分は剥離できる



▲銅線部分が太い場合も同様に剥離できる



▲小規模モノ造りを研究中の高山章久氏・ゴムと金属の剥離に執念を燃やしている



▲自動車利用者保護機構の代表者山下健樹氏・自動車整備事業者と自動車リサイクル事業者の連携を提唱している

一般財団法人自動車利用者保護機構という自動車整備と他産業の接点を模索する団体がある。ここでは廃棄タイヤの処理や災害時の廃棄車両処理を自動車整備事業者の視点から分析、新しい企業活動に繋げて行こうという運動が行われている。今回はここで今、取り組まれている「ゴム・金属部材の分離剥離技術開発・事業化」についてルポしてみた。

事は十年余り以前に遡る。某大手タイヤメーカーで製品開発に取り組んでいた高山章久氏(小規模モノづくり研究所)が大量に廃棄される使用済みタイヤ・電線・ゴムクローラー等の処理についてゴムと金属の分別に着目し、開発・事業化に取り組んだことから始まった。

◇ゴム・金属製品の効率的再利用を目指して

高山氏は廃棄物としてそのままの姿で大量に廃棄される使用済みタイヤが国内外で大きい環境破壊(焼却方式)に繋がる原因となっていることに疑問を感じ、ゴムと金属部分の剥離が簡単にできれば、現状打開は大いに進展すると確信、ゴム・金属分離剥離要素技術開発・研究を本格化させた。

タイヤメーカー出身の高山氏の呼びかけに反応したのが自動車整備工場を経営していた梅田忠弘氏(株エイコー代表取締役)で、今一人の協力者音成洋司氏(同社微生物活用事業部)の二人の協力者を得て、研究は加速、2019年には、ゴムと金属部材の分離剥離の(配合毎の)3種類の組み合わせ溶液の目的が検証できた。

この研究は大掛かりな開発設備を要する形

ではなく小規模で使用済みタイヤが発生する現場で簡単に実施できるというのがポイント。さらにいうならば廃棄物処理業者が廃棄物を引き取る段階ですべての作業が完成する。今までの事業感覚から一歩抜け出た形を持つる利点がある。小規模工場作り工法から導き出した異業種ネットワーク協業施策の考え方である。この発想は一製品一貫生産モノづくり(使い切る技術)に繋がると高山氏はいう。

◇高山理論に注目した自動車利用者機構

この点に着目した一般財団法人自動車利用者保護機構ではこの高山氏の理論をさらに自動車整備に関わる既存業界に結び付け、これまでになかった「新しいリサイクル技術+物流技術という展開」に拡大し2020年を迎え仲間づくりを開始している。

ちなみにこれまで大量の使用済みタイヤ・電線等ゴム製品は中国にほぼ全数輸出されてきたが、中国側の意向で日本からの廃棄物受け入れは目下のところ中断している。また受け入れが続行している他の発展途上国でも日本製タイヤの不法廃棄の状態が顕在化して、結果として日本側からの技術支援が求められつつある。

こういった背景を考慮して一般財団法人自動車利用者保護機構ではこのゴムと金属の剥離技術を直接、自動車整備及び自動車解体事業者に開放し、協同経営の形を執った新しい事業スキームを模索中だ。果たしてこの高山理論にもとづく使用済みタイヤ処理技術がどのように自動車解体業を中心とした関連業界で活用されるかは今後の課題だが、注目すべき新しい動きであることは間違いない。

【解説】

◇高山章久氏略歴

1971年横浜ゴム(株)入社。2013年同社退社。その後「小規模モノづくり研究会セノーテ」を神奈川県平塚市岡崎1624(株エイコー内)に設立し、ゴム・金属分離剥離要素技術の開発に着手、現在に至る。

◇一般財団法人自動車利用者保護機構

平成23年10月設立。災害時の復旧支援をはじめ非常電源のメンテナンスを西濃運輸の関連会社セイノーメンテックと連携してやっている。非常電源はディーゼルエンジンと同じ構造であり自動車整備士の技術が必要な分野で、介護施設、ビル等非常電源の整備を展開している。合わせて環境問題にも関心を持ち、業界に関連した産業廃棄物の循環型社会を目指した活動も行っている。

一方、災害時の水没車両等の引き上げのネットワーク構築に向けレッカー業者、整備業者に協力を呼び掛けている。参加したロードサービス関係者に、平時仕事に役立つアプリと連動したロードサービスのシステムの販売も予定している。

◇山下健樹機構代表の経歴

昭和29年8月3日鹿児島県薩摩川内市(甕島)生まれ。大学卒業と同時に設立間もない全日本ロータス同友会に入社。初代会長故中村昭彦に鍛えられながら、38年間勤務した。全日本ロータス同友会を2014年退社。その後、一般財団法人自動車利用者保護機構で防災ネットワークを構築すべく様々な施策を展開している。

【問い合わせ先】TEL080-5415-7798

東北大震災の被害を撥ね退けた (株)イマイ自動車の今井あき子専務に聞く



▲(株)イマイ自動車はあの大震災を跳ね返して復帰した

経営の中核で密かにトップを支えるのが参謀である。今回からスタートする新シリーズはこういう経営の隠れた参謀・猛者を発掘するために取材を開始した。その第一回目の登場人物はJARAグループのイマイ自動車・今井あき子専務(71歳)である。現会長今井鐵也氏の傍で創業時から経営を支え、今も現社長今井雄治氏の最側近だ。自動車リサイクル事業の裏と表をしっかりと見てきた同氏の見解を改めて聞いてみた。

イマイ自動車は先だつての東北大震災の被害も見事に受け止め、立ち直りました。ご苦労さまでした。目下のコロナウイルス対応ですが如何ですか。

今井 政府が推奨する「三密」を避けるべく社内に目を配って口うるさく口頭で注意喚起しています。そうとう嫌がられていると思います。(笑)

いまどき、はっきり口うるさく言ってくれる人が少なくなって日本全体が危ない状態です。言ってもらってありがたいというのが筋ではないでしょうか。

今井 コロナウイルスに殺されてはなんにもならない。死にたくなかったらマスクして、距離を2メートル保ってウイルスを移すな、と毎日ガンガン言われたらうるさいなあと思わない社員はいないでしょう。まして外向きに営業に出かける社員について

は徹底して教育する必要があります。会社を守るにはまず社員を守ることが大事で、人と人との関係を改めて見直している最中です。

歴史的に見て今はどういう時でしょうか…

今井 創業してしばらくした頃、この商売を辞めようかと会長と二人で思い悩んだ時がありました。鉄の相場が乱高下してほんとうに不安定な時期でした。そんなときに大石一彦さんと故守屋隆之さんの二人に出会って、グループの共有在庫の話聞き、二人とも大いに納得して仲間入りしたことが現在に至った原因でした。入会后、主人は品質統一の仕事に取り組んで、自分より身の丈の高い大手の会員に品質基準についてすげえ意見をいう難事業にあたりました。どういう言い方をしたらわかってもらえるか毎日悩んでいた当時の会長の表情をいまでも忘れることはできません。リサイクル事業というのは3Kの典型で嫌われる職種の筆頭でしたが、今では社会貢献が認められる企業体に変身してきました。ここまで育った会社を新型ウイルスぐらいに潰されてはたまりませんよ。しっかり息子に後を引き継いでもらいたい。そのためには今、一緒に働いてくれている社員を一人も残さず元気に働いてもらうにはどうしたらいいのかと毎日、口うるさく嫌われ役をかって出ているのです。(笑)

ところで二代目の雄治社長の実務訓練はどういうふうにされたのですか。

今井 二代目の教育については私なりの考えがありました。同業他社に修行に出すという動きも良く聞きますが、当社では逆に教育は当社でやるべきだという考えでした。他店でどんなに素晴らしい教育を受けたとしてもそれは当社の事情とは違う教育で、即効性はないというのが私の考えでした。そういう意味で現社長は社内でも訓練し、ともに働く社員たちといっしょに育った、私

たち夫婦が教えた経営者だと言えます。言い方を変えますと会長が現場を見て、私が経理を見て、息子の雄治が対外的にグループの仕事をするという形から、今は一歩前進して二代目が全社を統括する形に順次移行中だと言えます。

イマイ自動車の基本姿勢とはどういうものになりますか。

今井 会社経営は生き物で常に変化し続けています。局面に応じて変容させる経営上の判断力が決め手です。当社もグループ各社のご支援を得て、あの東北大震災を乗り越えることができましたが、予想以上の激変に対応することは並大抵のことではありません。また企業というのは社会から選んでもらえる内容を持たなければ意味がありません。存続するには選ばれるなにかをいつもしっかり身に付けておかなければなりません。つまり我々の場合は「廃棄する車両を完全な形で適正に処理できる能力」です。自分が持っている資質をしっかり発揮しなければいけないと思っています。

専務の目から見たこの業界での人材教育の流れはどういうものなのでしょうか。

今井 はっきり言わせてもらいますが、最近、二代目の代表者がグループ内で続々登場してこられました。若いから物の見方が甘いという先輩方の意見もありますが、私は一概にそうは思いません。びっくりするくらい鋭い見方をなさっている若い代表者が登場してこられています。国内、輸出、資源の各方面についてどうしたら適正な利益が確保できるか、極めて詳細に分析して適切な対応を実際にしておられる向きが増えました。そして私たちのような立場の者にいろいろ質問されるのですが、その質問自体も的確なるほどと唸らせる内容で頼もしい次世代が育ってきていると思います。新型コロナウイルス騒動が一段落したら、もう一歩業界は前進していると思います。

